

辺野古新基地建設の工事中止を!

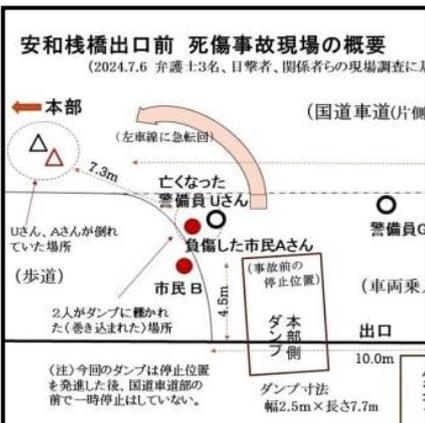
=安和栈橋での事故について=

山下律子

「安和で警備員と女性がダンプに轢かれた!」沖縄滞在を終え帰宅の途に就いていた6月28日のこと、スマホにただならぬメールが入った。

辺野古の埋め立て土砂は船路で運ぶことになっているので、ダンプは安和鉱山から採取した土砂を安和栈橋と塩川港に運んでくる。辺野古への土砂搬入を止めようと、安和栈橋での抗議行動は、栈橋の出入り口前の歩道をゆっくり歩く方法(牛歩)で行われている。この行動がとられてから5年半になるが、今まで事故は起きていない。それなのに一体何があったのだろうか?事故の詳細を知るために、すぐさまスマホでニュースを漁った。それによると、土砂を積み込み終えた空ダンプが国道に出ようとしたときに、車道に飛び出してダンプに抗議をしようとした者と、それを止めようとした警備員とがダンプに轢かれ、警備員は即死、抗議者は足を骨折と書かれていた。警備員即死!との情報に胸を痛めるとともに、骨折した抗議者の具合はどうだろう?と心配になった。さらに、抗議者の落ち度で警備員が死亡との報道に、抗議行動の行く末を案じた。

しかし報道と事実は全く違っていた。この事故後の7月6日、オール沖縄は、弁護士3名、事故の目撃者2名、いつも安和栈橋で抗議活動を続けているメンバー10数名で、事故の経緯や確認、調査を行った。その結果、二人が轢かれた場所は、歩道に設置された車両乗入部で、車道ではなく歩道であり、車道に出て抗議をしたというような事実はないことが確認された。安和栈橋出口では、警備会社・事業者・抗議者の間で、「抗議者が、車両乗入部の歩道を歩き終わったらダンプを1台出す」という暗黙のルールができていて、



これまで事故は起こっていない。しかし今年2月頃から工事の元受け業者が変わり、これまでのルールを守らず連続して2台を

出す誘導(2台出し)や、抗議者が歩道を渡り終えていないうちにダンプを出すなど危険な状態が発生するようになった。この



時も2台出しが行われ、2台目のダンプが急いで左車線に入ろうとして急ハンドルを切ったため、車両乗入部(歩道)の左隅に立っていた二人を巻き込み車道まで引きずったことが判明。決して抗議者が車道に飛び出したのではない。

事故当日の夜、辺野古の仲間から連絡があり、事故に遭ったのはOさんで、ニュースには骨折とだけ書かれていたが、血液の3分の2が内出血していて重体とのことだった。

事故から1か月後の7月29日に安和栈橋で「作業再開は許さない!辺野古基地建設中止!」を求める集会が開かれた。オール沖縄の稲嶺進共同代表も駆け付け、県内各地から100人ほどが参加した。事故の詳しい経過報告のあと、北上田さんから「防衛局は工事を再開するに当たっては、事故原因や再発防止策について県に十分な説明をしなければならない。防衛局に毅然として対応するよう県に求めている。重傷を負った被害者が加害者であるかのようなデマ宣伝が広められている。事故の原因は、辺野古新基地建設事業を急ぐために安全管理を怠り、土砂搬送ダンプの回転を速めようとした防衛局と受注業者にある。反対運動への誹謗中傷を許さず真相を訴えていこう」との話があった。オール沖縄からマスコミ向けに配布された資料には「私たちの抗議行動は、辺野古新基地建設反対という民意に基づく行動であり、基本的人権としての市民の表現の自由である。今回負傷した市民を含め、現場で抗議運動に参加している市民には、非難されるべき事情は全くない。私たちはこれからも、県民の民意と憲法に従い、安全に配慮しながら、現場での抗議運動を継続する。」と掲載されていた。

新聞報道等によると、8月22日防衛局は安和栈橋からの搬出入を再開。出入口とも車両乗入部には警備員がネットフェンスを持って立ち多くの機動隊員が動員され、抗議する市民を排除。ダンプが出入りする間歩道を閉鎖。市民が歩道を通行する権利を奪った。